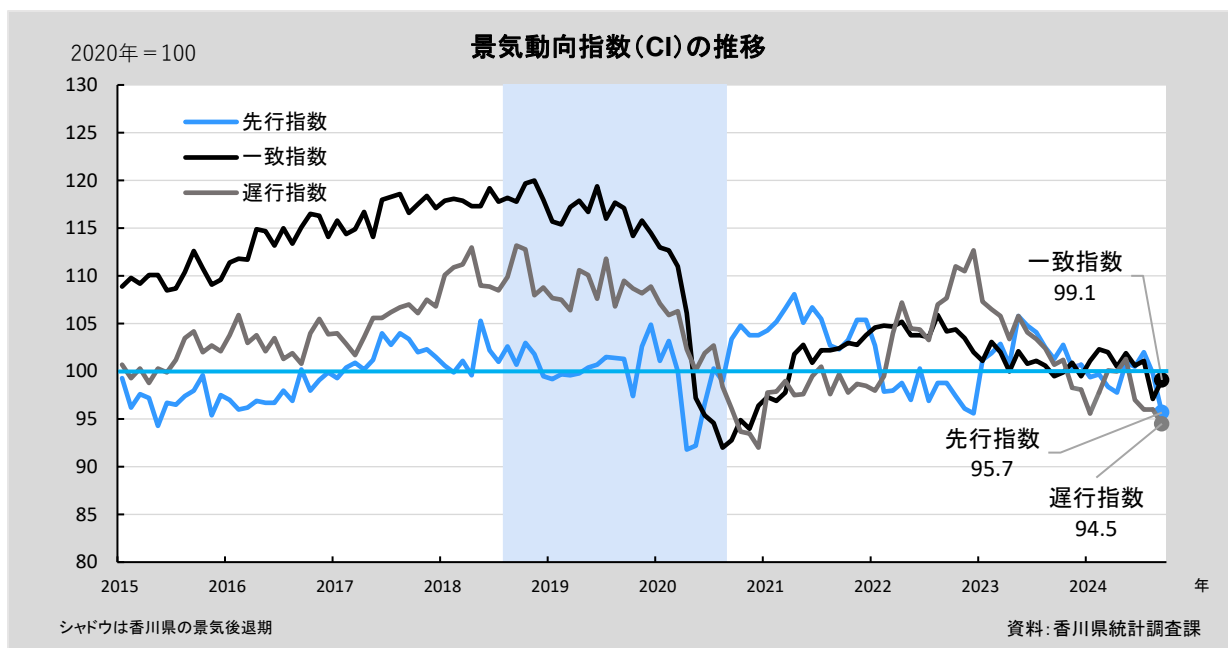


概況	緩やかに持ち直している。
個人消費	堅調に推移している。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直している。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出は減少、輸入は増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI) 一致指数 2カ月ぶり上昇



景気の現状をみると、9月のCI一致指数は99.1（前月比+2.0ポイント）と2カ月ぶりに上昇。CI先行指数は95.7（同▲4.1ポイント）と2カ月連続で下降。CI遅行指数は94.5（同▲1.5ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数・鉱工業生産指数、有効求人倍率等が上昇に寄与し、前月から2.0ポイント上昇となった。

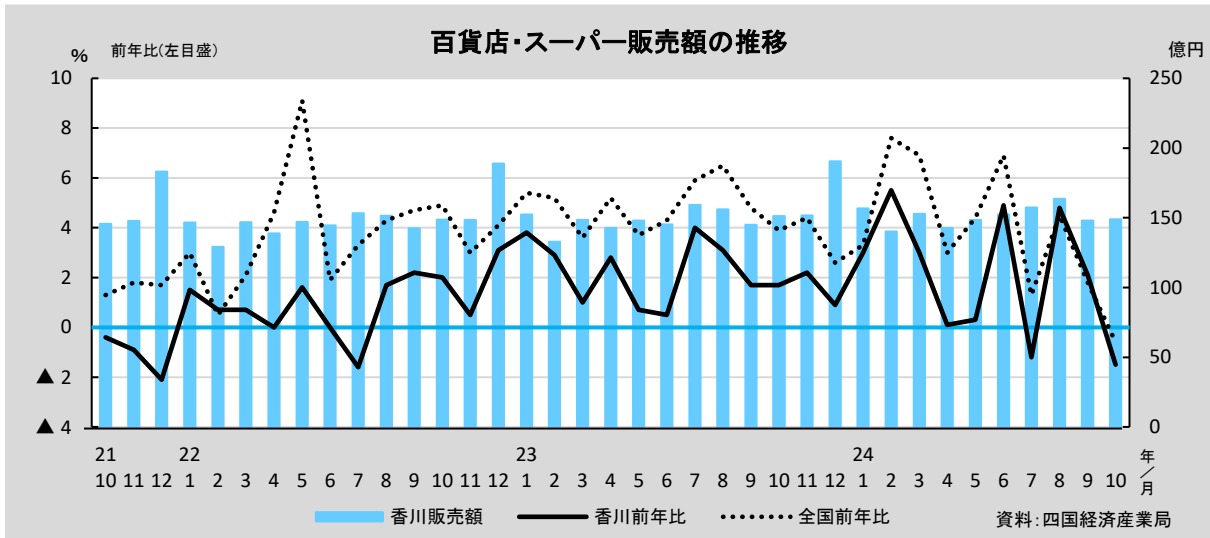
	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用景気指標	1 新規求人数	▲ 1.24	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.33	1 常用雇用指数	0.56
	2 乗用車新車登録台数	▲ 1.25	2 有効求人倍率	0.28	2 有効求職者数	0.96
	3 鉱工業在庫率指数	▲ 0.10	3 所定外労働時間指数	0.18	3 消費者物価指数	▲ 0.80
	4 新設住宅着工戸数	▲ 0.02	4 鉱工業生産指数	1.09	4 家計消費支出	▲ 0.31
	5 金融機関貸出残高	▲ 1.02	5 鉱工業出荷指数	1.23	5 鉱工業在庫指数	▲ 0.24
	6 消費者態度指数	▲ 0.19	6 建築着工床面積	▲ 0.04	6 法人事業税調定額	▲ 1.35
			7 百貨店・スーパー既存店販売額	▲ 0.37	7 第3次産業活動指数	▲ 0.07

個人消費

堅調に推移している

●百貨店・スーパー販売額

3カ月ぶり減少 ↓

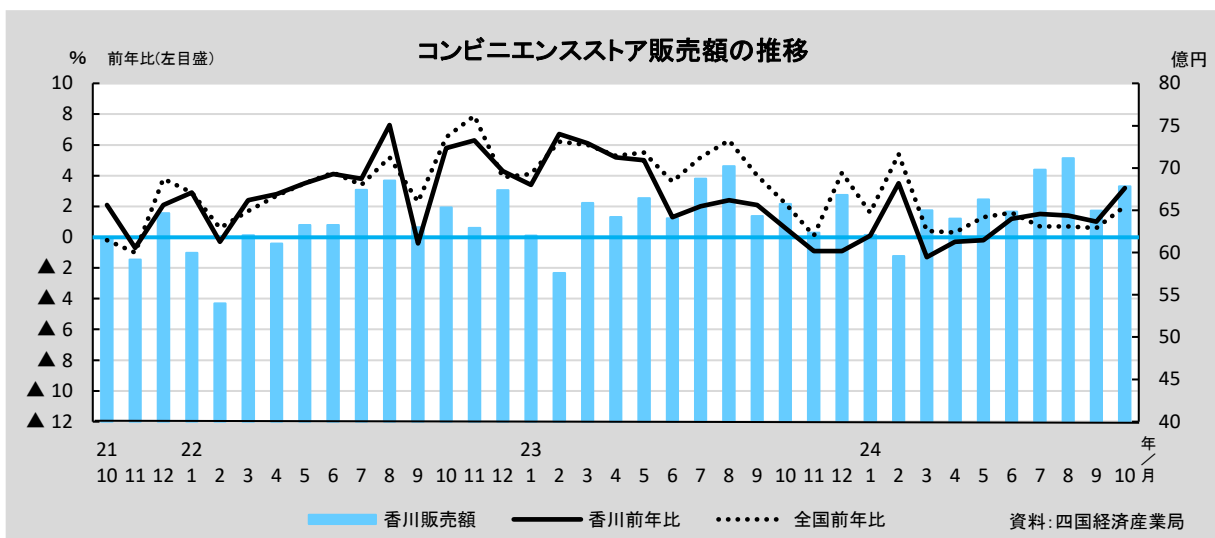


2024/10月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	107,093	54,613	1,108,493	2,070	3,695	68,996	144,292	432	1,489,684
前年同月比(%)	▲12.5	▲12.6	0.8	▲25.4	▲15.5	2.9	▲5.3	▲20.0	▲1.5

10月の百貨店・スーパー全店(83店)の販売額は149.0億円で、前年同月比▲1.5%と3カ月ぶりに減少した。「衣料品」は秋物衣料の動きが伸び悩み同▲12.5%、「その他の商品」はマスクなどの衛生用品の動きが鈍く同▲5.3%と減少した。一方「飲食料品」は同+0.8%と堅調に推移した。

●コンビニエンスストア販売額

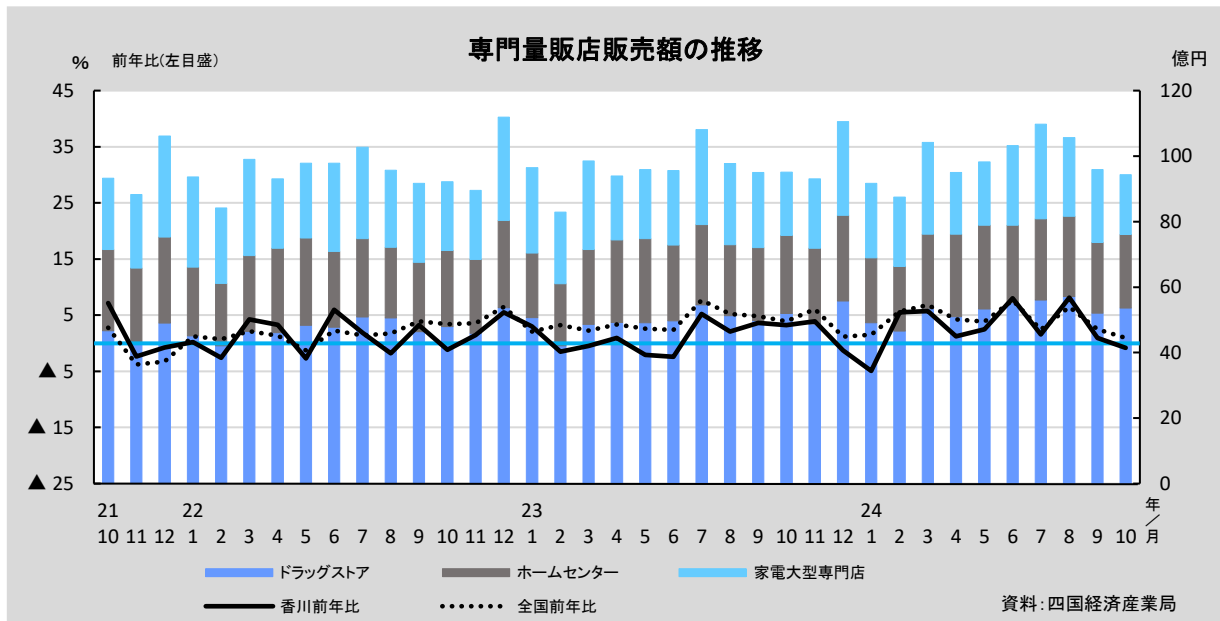
5カ月連続増加 ↑



10月のコンビニエンスストア全店(406店)の販売額は67.9億円で、前年同月比+3.2%となり、5カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

9 カ月ぶり減少 ↓

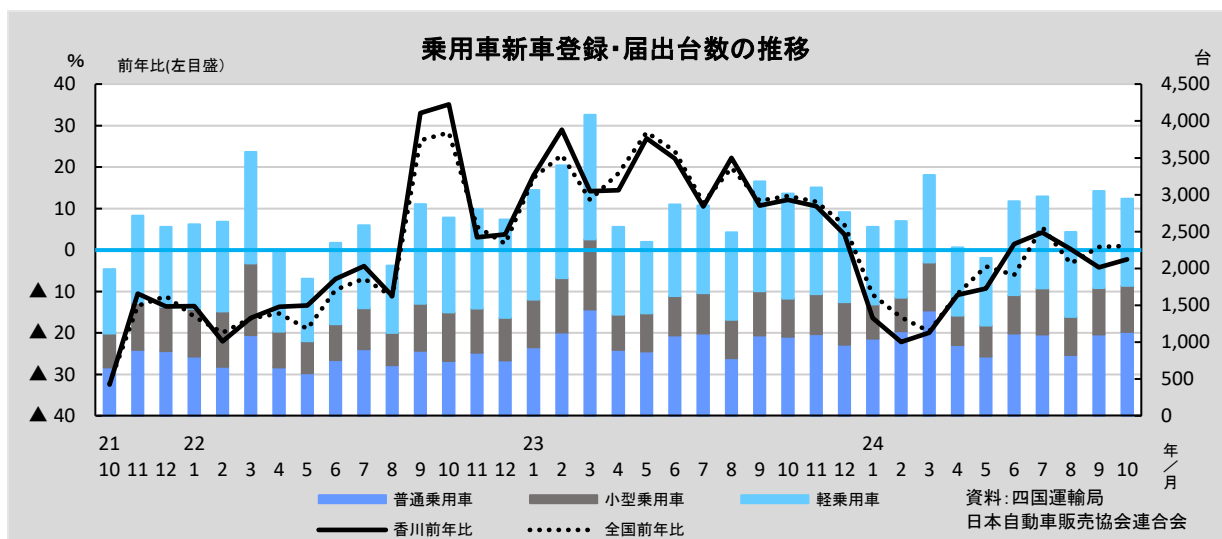


10月の専門量販店全店（228店）の販売額94.3億円で、前年同月比▲0.8%と9カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（27店）の販売額は、18.3億円で前年同月比▲5.6%となった。**ドラッグストア**（154店）の販売額は、53.6億円で同+3.3%となった。**ホームセンター**（47店）の販売額は、22.5億円で同▲5.9%となった。

●乗用車新車販売台数

2 カ月連続減少 ↓



10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は2,948台で、前年同月比▲2.3%と2カ月連続で減少した。

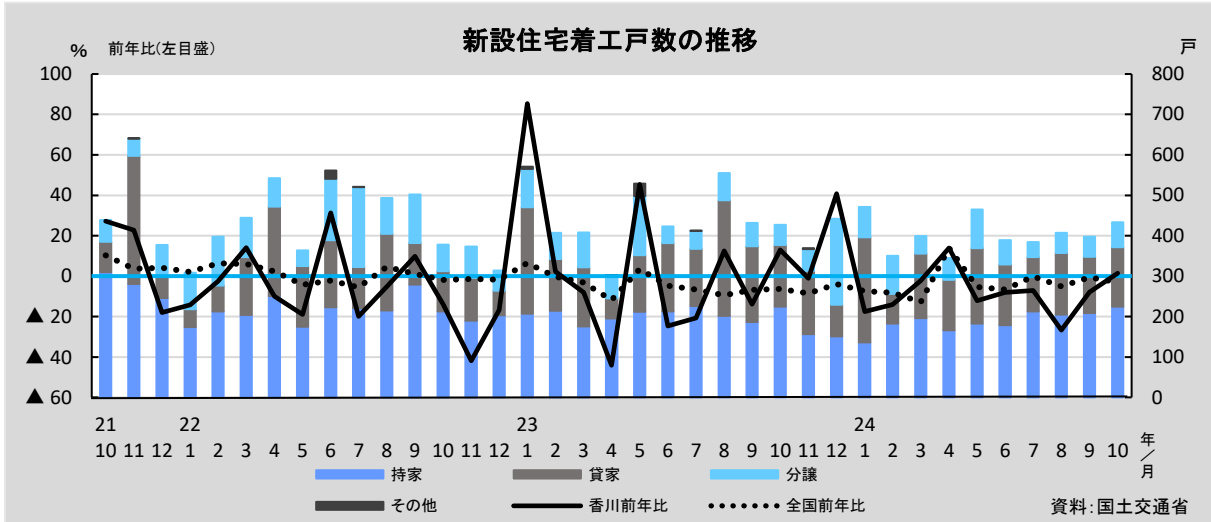
車種別にみると、普通乗用車は前年同月比+6.0%、小型乗用車は同+20.8%、軽乗用車は同▲16.9%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

6カ月ぶり増加 ↑



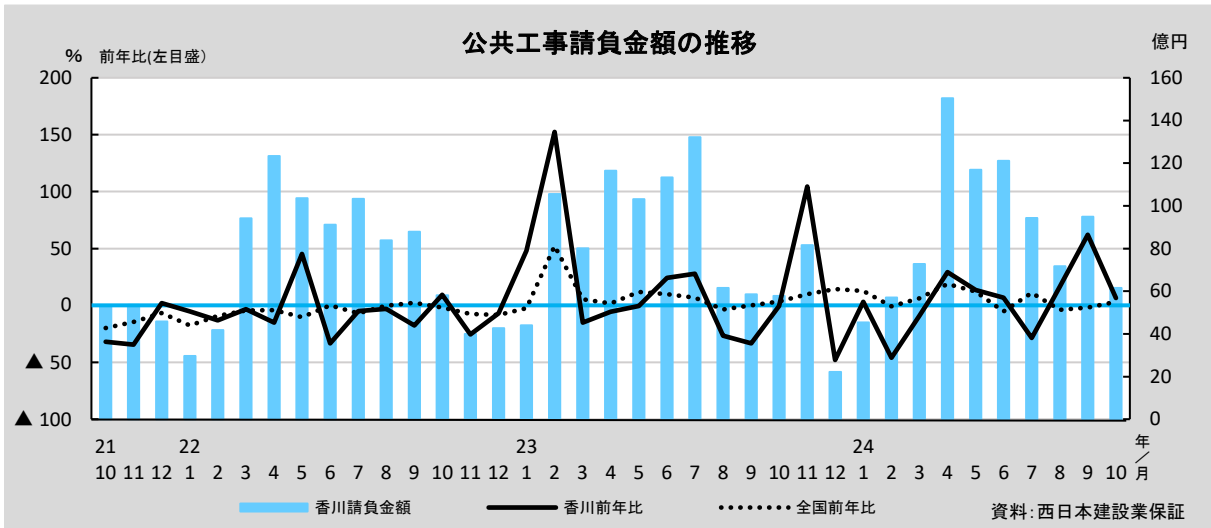
10月の新設住宅着工戸数は433戸で、前年同月比+1.4%と6カ月ぶりに増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比横ばい、**貸家**で同▲3.3%、**分譲住宅**で同+22.0%となった。

公共投資

持ち直している

●公共工事請負金額

3カ月連続増加 ↑



10月の公共工事請負金額は61.5億円で、前年同月比+6.4%と3カ月連続で増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比▲13.5%、**県**で同+30.1%、**市町**で同+12.9%となった。

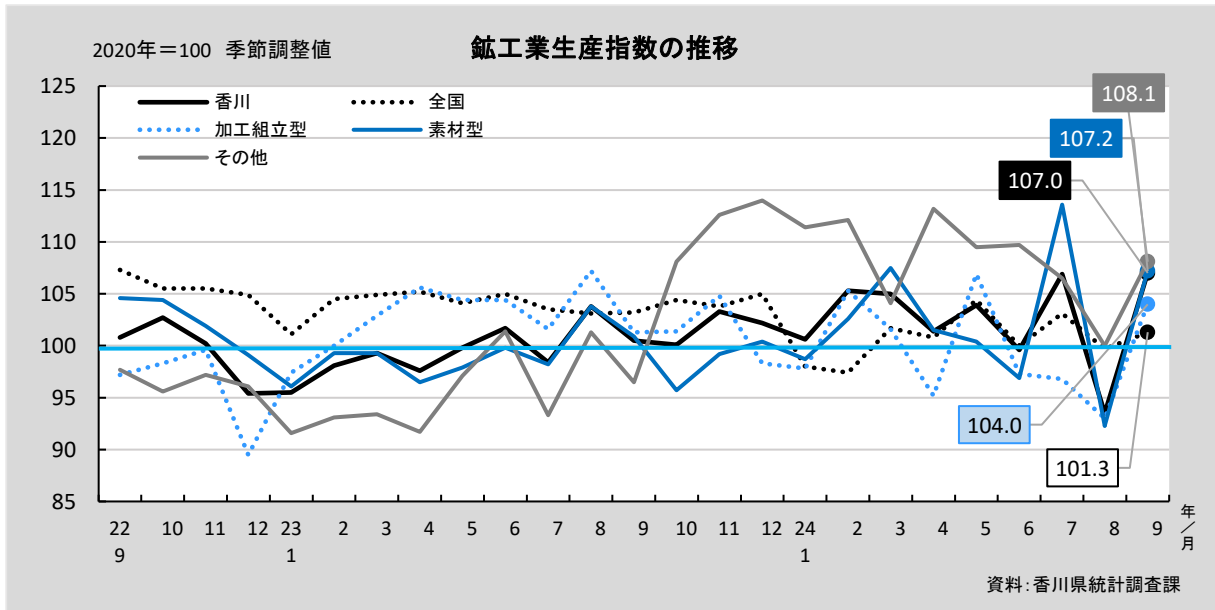
2024.4月～10月の累計では前年同期比10.6%増加している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

● 鉱工業生産指数

2 カ月ぶり上昇 ↑



9月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は107.0（前月93.5）となり、2カ月ぶりに上昇した。

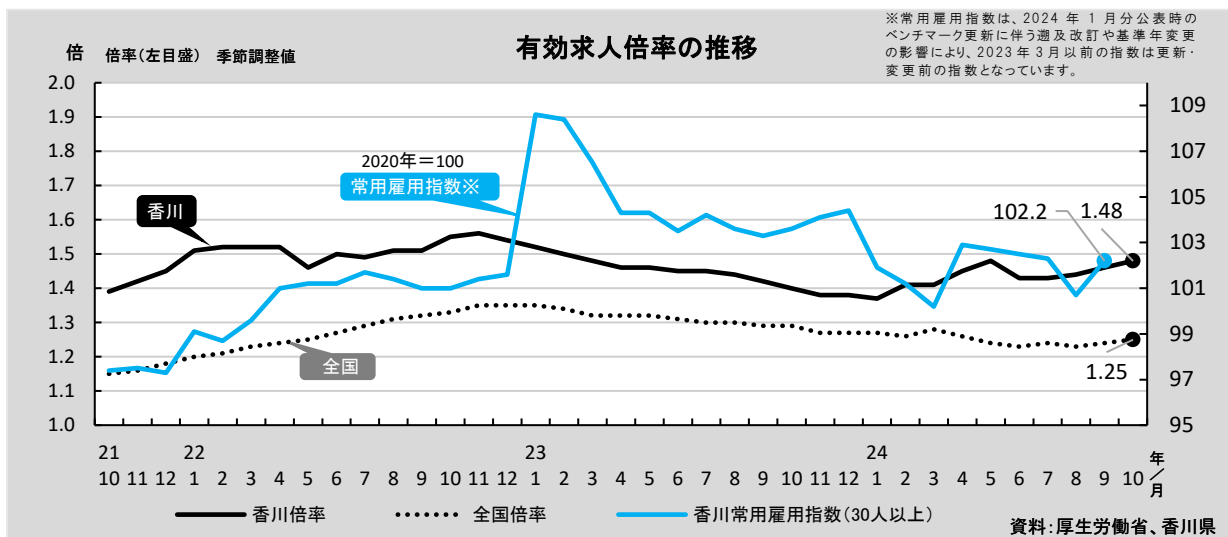
業種別では、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は前月比+39.0%、加工組立型の汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同+13.2%と上昇した。一方、その他業種の繊維工業（不織布など）は同▲15.0%と低下した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

3 カ月連続増加 ↑



10月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.48倍（全国5位）で前月より0.02ポイント上昇した。

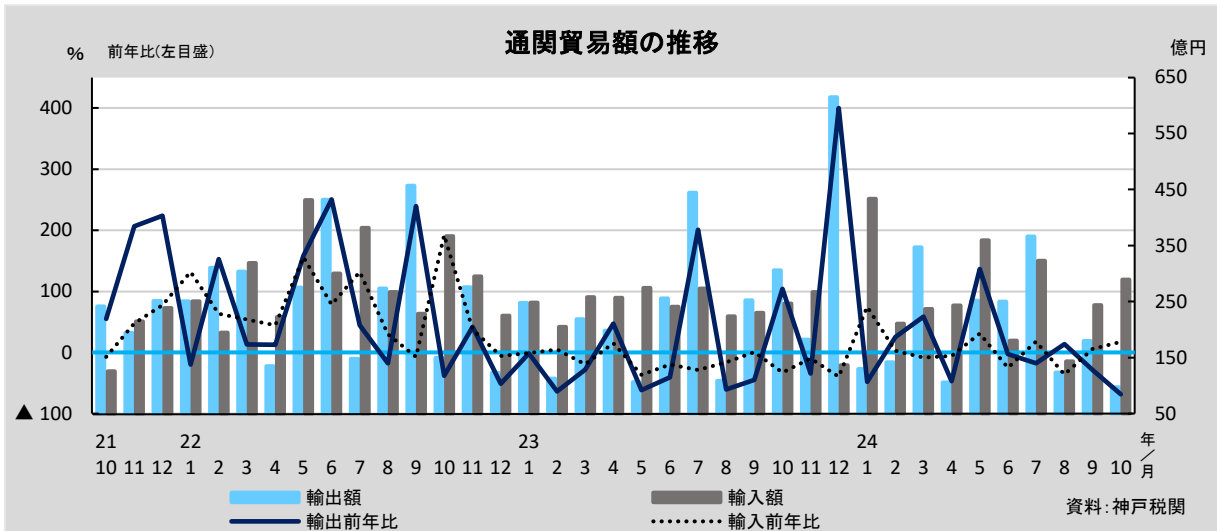
新規求人（原数値：前年同月比）は、サービス業（他に分類されないもの）、医療・福祉、卸売業・小売業等で増加となり、全体で+3.9%と2カ月ぶりに増加した。

9月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.2となり、前年同月比は9カ月連続で減少した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.17
事務的職業	0.66
販売の職業	2.29
サービスの職業	3.32
生産工程の職業	2.61
輸送・機械運転の職業	2.34
建設・採掘の職業	6.15
運搬・清掃・包装等の職業	1.25

貿易

輸出は減少、輸入は増加している



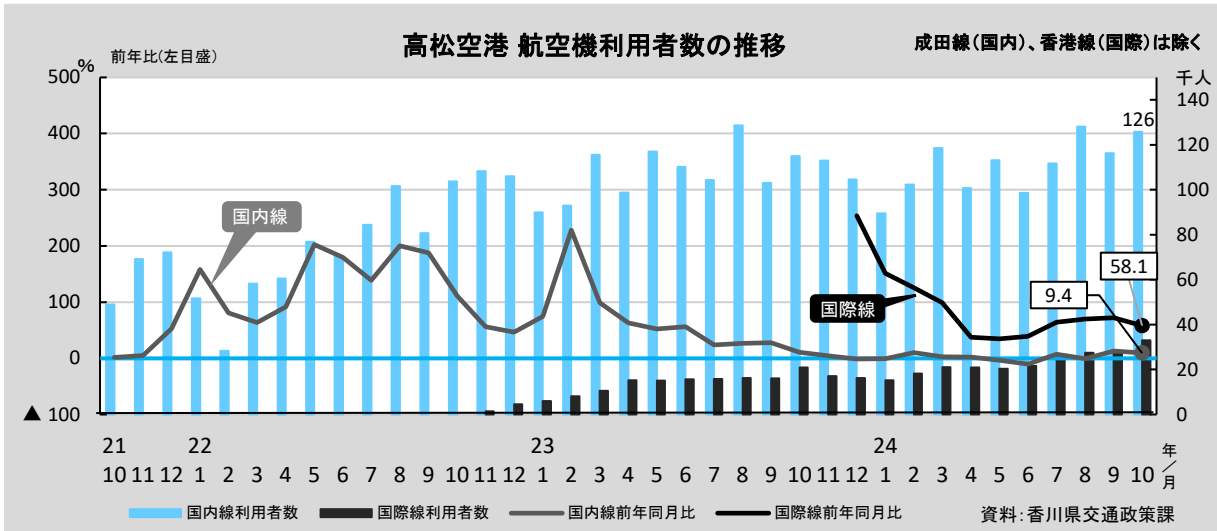
10月の輸出額は前年同月比▲68.1%の97.4億円、輸入額は同+17.4%の289.4億円となり、差し引き192億円の入超となった。

輸出は、前年同月211億円だった貨物船輸出額がゼロとなった。輸入は、前年同月ゼロだった液化天然ガス輸入額が50億円となり増加に寄与した。

交通

国内線は2カ月連続増加、国際線は12カ月連続増加

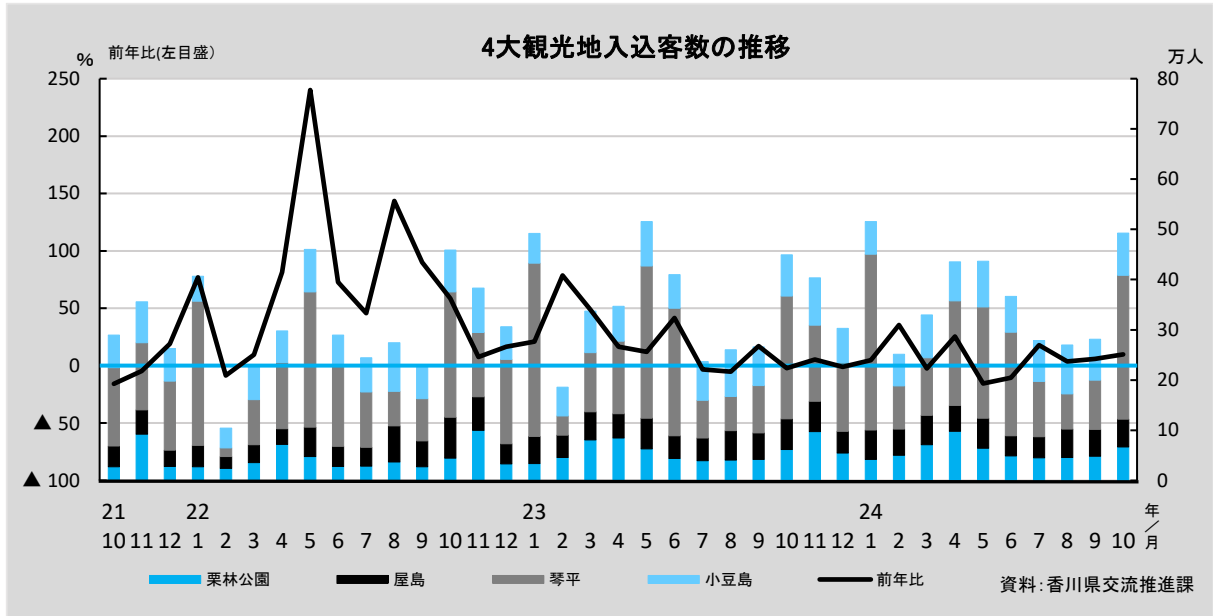
●高松空港旅客輸送実績



10月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が125,809人(前年同月比+9.4%)となり、2カ月連続で増加した。羽田線は114,462人(同+8.0%)、那覇線は11,347人(同+26.1%)となった。

国際線は、ソウル線21,407人(同+42.5%)、上海線4,946人、台北線6,671人(同+26.9%)で合計33,024人(同+58.1%)と12カ月連続で増加した。

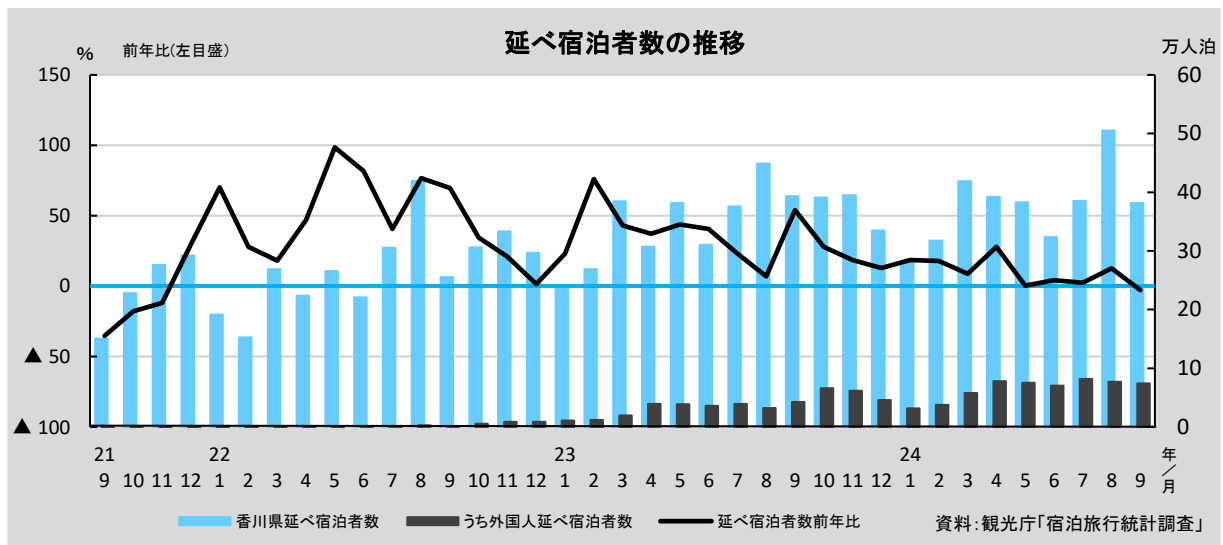
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計					
10月(人)	前年同月比	67,005	▲9.0%	55,384	▲9.9%	286,000	17.2%	84,455	2.5%	492,844	9.7%
1~10月累計(人)		580,475	8.5%	527,841	0.1%	1,751,000	4.0%	797,751	5.8%	3,657,067	4.5%

10月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+9.7%と4カ月連続で増加した。栗林公園は前年同月比+9.0%、琴平は同+17.2%、小豆島は同+2.5%と増加したが、屋島は同▲9.9%と減少した。1~10月の累計では前年同期比+4.5%となった。

●延べ宿泊者数



9月の延べ宿泊者数は381,840人で、前年同月比▲2.9%と34カ月ぶりに減少した。うち、外国人延べ宿泊者数74,030人となり、前年同月比+74.8%と26カ月連続で増加した。